

# 愛光会だより

第104号

桜島学園 和光学園  
総合サポートセンター ラン  
平成31年1月1日発行

桜町学園 フレンドリーホームいいぐま  
おひさまキッズ 福祉総合相談支援センター あい  
発行・編集 社会福祉法人 愛光会  
鹿屋市海道町729番地6 TEL 0994-46-2821

FAX 0994-46-2825  
<http://www.aikohkai.com/>



新年、明けましておめでとうございます。

この作品はクリスマスに向けて、利用者・職員と共に作成しました。クリスマス会に華を添え、クリスマス会後は、居住棟に飾りクリスマス気分を盛り上げる作品となりました。  
(フレンドリーホームいいぐま)



# 「ある老兵のつぶやき」

社会福祉法人愛光会 理事長 指宿 興一

新年、明けましておめでと  
うございます。

平成三十一年そして「新し  
い年号の元年」を迎えて、皆  
様方にはご健勝のこととお慶  
び申し上げます。

皆様ご存知のことと思いま  
すが、本年の四月三十日をもつ  
て「平成天皇陛下」はご退位  
され、五月一日「皇太子殿下」  
が「皇位」を継承されます。  
それに伴って「平成」から「新  
しい年号（平成三十年十二月  
三十一日現在未定）」になりま  
すので、両年号にて新年のご  
挨拶をいたしました。

旧年中は、「愛光会」の「諸  
事業」に対して多大なご理解  
とご支援を賜り厚く感謝申し  
上げます。おかげをもちまし  
て「利用者と役員」ともど  
も無事年を越して新しい年を  
迎えられました。改めて御礼  
申し上げます。

さて、前号までの「愛光会  
だより一〇〇号発刊によせて  
（その一、その二、その三、そ  
の四）」では「愛光会の歴史」  
を辿ることによって、それぞ

れの時代の福祉状況が変化し  
てきたことを理解しました。

そこで、今回から今後の福  
祉情勢に大きな影響を与えそ  
うな、最近の社会情勢をテー  
マに選び、「ある老兵のつぶや  
き」として自問自答してみた  
いと思えます。これはあくま  
でも「老兵」の独りよがりの  
「つぶやき」です。何かとご迷  
惑おかけしますことを前もつ  
てお詫び申し上げます。

## 「自然災害」

昨年は、「地球温暖化」が進  
んだためか「想定外自然災害」  
の非常に多い年でした。

年始めは、西日本を中心に  
して三十二年ぶりの厳寒と豪  
雪に見舞われて、今年は「異  
常気象」の多い年になるのだ  
はないかという「悪い予感」  
が的中してしまいました。

六月十八日、大阪府北部を  
震源とした震度六弱の「大阪  
府北部地震」が発生しました。  
大阪府内の「ライフライン」  
は全て止まり、関西の交通は  
大混乱に陥りました。その際

大阪府高槻市の小学校に通う  
九歳の女の子が、小学校のプー  
ル近くの倒壊したブロック塀  
の下敷きになって死亡する痛  
ましい「人災事故」がありま  
した。あえて「人災事故」と  
いうのは建築物やその付属す  
る建造物の安全基準を定めた  
「建築基準法」の基準にその「ブ  
ロック塀」が抵触しているこ  
とを「小学校」や「行政」は  
認知しながら放置していたか  
らです。遅まきながら、全国  
の小中学校関係の「ブロック  
塀」の点検、撤去、改築工事  
が始まりました。そのような  
「危険箇所や予想される場所」  
をなくする努力は絶対に必要  
ですが、その前に「危険度、  
場所」は迅速に公表して、周  
知徹底を図ることが最優先さ  
れるべきと考えます。尊い犠  
牲者を出さなければ、物事が  
動かないというのは、日本人  
特有の思考パターンで、あま  
りにも悲しいことです。

七月には、近畿、山陽地方（岡  
山県、広島県）で豪雨に見舞  
われ河川の氾濫や浸水、土砂  
災害が発生し、多数の人的被  
害を出す甚大な災害となりま  
した。今年の夏は記録的な猛  
暑と熱帯夜が続き、「危険な暑  
さ」と表現されました。熱中

症での救急搬送者も過去最高  
のペースとなり、「室内での『熱  
中症死』」というケースが多発  
しました。

九月六日に発生した最大震  
度七の「平成三十年北海道胆  
振東部地震」では「人的」や「ラ  
イフライン」の被害、交通機  
関の混乱もさることながら「ブ  
ラックアウト（大規模停電）」  
が発生しました。一六五万キ  
ロワットを発電していた苦東  
厚真火力発電所が被害に遭つ  
て自動停止したため、需要パ  
ランスが崩れて他の発電所も  
停止して道内全域の停電につ  
ながりました。停電の影響は  
一時二九五万戸に及びました。  
「阪神淡路大震災」の二六〇万  
戸を上回る規模で広い範囲で  
社会・経済活動に影響が出ま  
した。

さらに最大風速四十四メー  
トル以上の「非常に強い台風  
二十一号」は大阪市に上陸し  
て関西地域を中心に大きな爪  
跡を残しました。関西空港は  
高波が襲い、滑走路等が浸水  
被害をうけました。特に唯一  
のアクセス橋梁が漂流した「タ  
ンカー」より衝突被害を受け  
て一週間「海の孤島」となり  
海の人工島空港の弱点を晒し  
たのは記憶に新しいところで

す。

このような「異常気象」は、  
人類の生存のための「必要最  
低限度の自然破壊への努力」  
を軽視した結果、生じた「地  
球高齢化の急速な進行」にも  
一因があるのではないかと勝  
手に推測しています。

また鹿児島県では、全国的  
な地震津波、台風、集中豪雨  
等「自然災害」に加えて「火  
山爆発災害」への対応を迫ら  
れています。特に「桜島」は、  
大都市鹿児島市に近接し、人  
口五千人が生活している「島  
規制」で比較的平穏ですが、  
中・長期的に見れば「大正大  
噴火」当時の「エネルギー量」  
に匹敵する「マグマ」が供給  
されつつあり、いずれにして  
もいつかは「大爆発」がある  
であろうと高い確率で認識さ  
れているところです。

国は、このような「自然災害」  
から国民の生命、財産を守る  
ために、五千人以上の死者・  
行方不明者が出た昭和三十四  
年の「伊勢湾台風」をきっか  
けに昭和三十六年「災害対策  
基本法」を制定していました。  
その内容は国、地方公共団体  
等による「防災体制の確立」  
と「責任体制の所在の明確化」



を図り、「防災計画の作成」、「災害予防」、「応急対策、復旧対策事業」と「予算等」の基本を定めています。さらに平成七年の「阪神・淡路大震災」の経験から「ボランティア」や「自主防災組織」の活動環境の整備や「自衛隊の派遣要請の法定化」が織り込まれていきます。さらに内閣府は、平成二十年四月に『自然災害の「犠牲者ゼロ」を目指した総合プラン』を発表しています。

この「総合プラン」は国民一人ひとりの「命」を守るための災害対策をソフト・ハードの両面からすすめていくにあたり、「自助」や「共助」を「防災対策の最重要事項」と位置付けられています。そのうえで、「命」を守るための国民の備えの充実のために「自助」、「共助」を促進する「連携プラン」を推進することとしています。具体的には、自然災害の怖さを知ることとして「実感」から始まる避難・減災対策の推進、情報が「命」を守るためにいつでも、どこでも、誰にでも、役に立つ災害情報

の提供、地域の絆でお年寄りや障害を持った方を守るための災害時要援護者支援対策の推進、地域の防災力の向上を目指す、地域での助け合い体制を整備することとしています。

そして、「命」を守るための防災基盤の充実として、「いつでも・どこでも」発生しうる地震の脅威への対応として東南海・南海地震を中心にして全国どこでも起こりうる「想定」を広く国民に周知徹底を図るとともに気候変動による豪雨や台風の強度の一層の増大、過去の統計や経験が通用しなくなる災害が生じること

も想定され、それら気候変動への対応を踏まえた災害対策が必要と提言しています。とりわけ気候変動の影響を組み入れた「治水対策等」並びに住宅や公共施設等建築物、インフラの「耐震化」を促進する必要があります。しかし平成二十三年に発生した「東北地方太平洋沖地震」では「福島第一原子力発電所」の最悪の原発事故（メルトダウン）の発生時に「緊急避難情報」の伝達すらなされなかつた「異常事態」に陥りました。その結果「広域的防災対策」とともに「巨大災害時の危機管理」の法整備が漸く図られたのでした。

去年の「自然災害」の規模・発生状況が異常ではなく、今後は一層拡大していくと考えられます。このように、想定された以上の「自然被害」が五年も経過しないうちに襲来することを誰が「想定」したでしょうか。地球の自然は、急激に破壊されつつあるのではないでしょうか。

「危機管理の在り方」を改めて考え直す必要があると考えています。

そこで「愛光会」の「自然災害」を含む「リスクマネジメント」を基本的理念に基づいて、抜本的見直しするよう提言します。

一つは、台風、豪雨、地震、火山等による強風、浸水、崖崩れ、土砂流、強震、津波等の「各事業所被害状況」と「周辺インフラ被害状況」を想定して、誰でも理解できるように目で見えるように「数値化」する。

それらに対する対応策の準備状況を考慮して、「各事業所自然災害リスク度」に表示できるよう調査研究する。

二つは、それらを踏まえて「自然災害リスク度」の低減を図るべく具体的対応を講じることとする。

三つは、桜島大爆発に伴う「桜島学園避難計画」を最優先事項として、それぞれの事業所特有の自然災害の種類や強弱、時期、避難経路と場所を踏まえた「防災対策のあり方」と「避難行動」の是非やタイミングの選択判断する「マニュアル」の研究を進める。

四つは、各地域の高齢者、障害者の避難所と指定されている鹿屋市内の各事業所（和光学園、桜町学園、フレンドリーホームいぐま）は「各地域のインフラ」の復旧状況を想定して、各避難所の機能を可能な限り維持できるように準備する。具体的には、その事業所の所在する地域のインフラ機能がすべてダウンし、孤立した状況下で、その事業所を含む地域の被害者を最低三日間以上耐えて、救助を待てるようハード面、ソフト面可能な限り計画準備する。

五つは、「自然災害」の防止や減災を図るために自助、共助、公助の「有効に機能する連携システム」の整備が必要不可欠であります。そのようなことから、事業所内、法人内、地域（中学校校区単位）、市町村、郡、都道府県、地方、国レベルでの「防災意識の強化」と「自助、共助、公助」を織り込んだ「防災対策システム」の整備を急がなければなりません。

そのうちの法人内と地域内の「防災対策システム」の整備を進めることが最優先されるべきです。このような目標を目指して、少しでも近づけるよう努力する必要があります。最後に「自然災害」はいつでも、どこでも、想定されない規模で襲いかかることを肝に銘じたものです。





新年を迎えて

桜島学園 園長 野口 輝俊

新年明けましておめでとうございませう。旧年中は子どもたちへの心温まるご支援と、当園へのご理解を賜り、心より感謝申し上げます。

おかげさまで子ども・職員ともに、健康で元気に年を越すことができました。

さて、昨年の子どもの様子をいくつか紹介します。まず施設球技大会では男子野球部監督初年度の牛垣指導員が、初戦勝つたら九州大会出場という希望にみる幸運な抽選を引き当てました。大会では見事初戦勝利を収め、十年ぶりの九州大会出場を決めました。秋桜杯スポーツ大会でも、男子は綱引きの部で予想外の二年連続優勝。ちゃっかり者の男子軍団は本番で驚異的な集中力を発揮し勝負強さを見せつけることでした。一方の女子は夏の球技大会で、バレー部初の九州大会出場を目標にして、練習に励みましたが、善戦むなしく目標には届きませんでした。しかしチームワークは抜群で、最後まであきらめず、大きな声を出して食い下がる姿に、感動させられました。来

年こそ夢を叶えてほしいものです。文化活動では、高校生のMさんが描いた絵「Treasure」が全養協児童文化奨励絵画展で入選し、表彰されました。この他にもたくさんのお友達が頑張りました。本年も子どもたちが頑張れるよう、精いっぱい支援していきたく思います。

職員の方では、昨年たくさんのお友達が入学してきてくれました。そのせいで学園の雰囲気が一変し、とても明るくなったような気がします。現在学園で力を注いでいるのが職員の育成と、働きやすい職場づくりです。一朝一夕には成しえませんが、子どもたちが安心して自分を委ね、生きる力を培っていただける養育に取り組んでいるところです。

皆様にとつて今年が良い年でありませうに、衷心からお祈りいたします。本年もよろしくお祈り申し上げます。



災害の多かった年

和光学園 施設長 松脇 政記

新年おめでとうございませう。利用者・ご家族皆様、元気に過ごされ楽しい良き年であることをお祈り致します。

昨年は、大地震が二回、そして豪雨や台風が発生が多く自然災害の多い年でした。皆様方被害はございませうでしたか。

六月十八日大阪府北部地震で二府五県で負傷者四百三十五名、死者五名うち二名はブロック塀の崩落、一名は本棚の下敷きとなり死亡。九月六日北海道胆振東部地震死者三十六名、道内大規模停電を起こしました。地震は、地球の自然現象です。

これから南海トラフ大地震が心配されます。太平洋静岡県沖から宮崎県沖までの海溝で起きるとされ、大隅半島に十二メートルの津波が押し寄せるとの予測があります。三十年以内に七割の確率で起きると想定され、いつ起きてもおかしくありません。

七月九日西日本豪雨、土砂災害や川の氾濫が相次ぎ多くの被害が出ました。十三府県で死者二百名、四千名以上が避難所で生活されています。

一昨年は九州北部豪雨、毎年梅雨末期になると豪雨災害が発生しています。地球温暖化が原因といわれますが、この時期の雨の降り方は昔と比べて異常だと思えます。

九月三十日台風二十四号佐多岬沖を通過、和歌山県に上陸、鹿児島県内では農作物被害や強風と大雨で浸水や倒木被害がありました。JR東日本が初めて首都圏の路線を計画運休させています。

愛光会は、災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード会員です。施設・事業所が被災した時は、全国の会員から支援を受けられます。法人リスクマネジメント委員会では、自然災害に備えて各施設・事業所に適した避難マニュアルを作成しており、施設が孤立したときは関係機関の要請はもちろんです。法人としての応援・協働体制をとり、災害に備え利用者様の安全安心確保に努めてまいります。



二〇二五年、二〇四〇年問題について

桜町学園 施設長 前原 昭子

明けましておめでとうございませう。皆様方には、新年をつつがなくお迎えされたこととお慶び申し上げます。

桜町学園の利用者様及び職員共々が、新年を元気で迎えられることは、皆様方のご指導、ご支援あつてのことと、心より感謝申し上げます。

さて、近い将来、日本社会は二つの問題に直面するといわれています。一つは「二〇二五年問題」で、日本の人口の約5%を占める団塊の世代（一九四七年～一九四九年生まれ）が七十五歳を迎え、介護リスクが高い後期高齢者の割合が二十%近くになることです。超高齢社会ならではの介護・医療費等社会保障費の急増等、困難な問題に直面することになり、医療費は現在の二・五倍、介護費は二・四倍になると言われています。二つめは「二〇四〇年問題」です。この年、団塊ジュニア（一九七一年～七四年生まれ）が七十歳以上になつて日本の人口は一億人を切るか切らないかという年を迎え、高齢者人口も二〇四二年頃にピークを迎



えるときわれています。労働人口も激減し、このとき介護の問題が最も深刻化するとされています。当然、人口が減少すれば労働力人口も減少し、二〇四〇年の労働人口は四、四八〇万人と、二〇一〇年比で二十五%程度減少することになると予想されています。

また、元総務相の増田寛也氏は、二〇四〇年には、全国の自治体の約半数にあたる八百九十六の自治体が消滅の危機を迎え、国や自治体の存続を左右する大問題になっているのが実情で、少子高齢化や人口減、地域社会の消滅という問題は、日本社会に深刻な影響を与えると指摘しています。

この様な問題が山積する中、社会福祉法人愛光会は、利用者様の幸せはもとよりですが、働く職員の幸せも考える職場づくりに取り組んでおり、産休や育休、介護休暇等の充実や適正な給与体系等に力を入れています。桜町学園におきましても、この様な休暇制度等を活用しながら、丁度良い、ワークライフバランスに取り組んでおり、仕事も家庭も大事にできる、働きやすい職場であると自負しています。

今後利用者様と職員の幸せを確保できる事業所を目指していきたいと考えておりますので、本年も今まで同様にご支援、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

### 気質・性格・人格

フレンドリーホームいぐま 施設長 指宿 章子

明けましておめでとうございませう。昨年中は、色々とお世話になりました。誠に有り難うございました。今年も宜しくお願い致します。

私達は、それぞれ人として気質・性格・人格を備えています。育ってきた環境、経験の違いもあり、各人個性も十人十色です。お互いに個性、人柄を尊重しながら様々な方々と関わりを持ち過ごしています。気質とは、その人が持つて生まれた性向をさす概念であり、同じ親から生まれたとしても、兄弟の気質はそれぞれ異なり、その人なりの特徴をなし、永続的で安定し情緒に関わる部分であります。

性格は、その人の表面に現われた他の人と区別される特徴に注目した概念であり、経験を通してその人に刻み込まれた特質を意味します。人格は性格の他に、知能や記憶、意思等様々な要素を含み、その人に顕在化している性格特徴から、潜在的な特徴まで包括的に考える概念であります。対人関係において、あの人と

は気が合うとか合わないとか、自分を起点にした判断は主観的なものであり、自分を中心に物事の判断を行うと、トラブルに繋がりが易くなります。

ここで二十世紀初頭、精神医学者クレッチマーによる体型による気質、性格特徴を参考に述べたいと思います。肥満型の人は社交的、明朗、気が弱い。細長型の人は非社交的、まじめ、正直。筋肉質型の人は几帳面で丁寧、回りくどい、時々暴発する、等示されています。自分を含め皆様方に似通った性格・特徴がありましたでしょうか。

(心のバランスが崩れてしまいうような状況や、実際崩れてしまった状況に置かれた時、そのバランスを保ったり、回復しようとする心の働きの一種が防衛機制であり、防衛機制は心の健康を保つのに重要な役目を果たしているが、あまりに強くなり過ぎ、柔軟性を失ってしまうと、逆に病的なものになる。防衛機制の基本的なものが抑制である。)

(人格心理学、大山氏著書参照)

### 地域生活と共生社会

総合サポートセンターラン 施設長 有嶋 君夫

新年明けましておめでとうございませう。

昨年は、利用者様及び職員におきましては、大きな事故・病気等なく無事過ごすことができた事に安堵しているところでございます。

平成二十八年度に国が、グループホーム利用者の一人暮らし推進を謳いました。

すぐに利用者様とその勤め先に国の情報を伝えたところ、一人の方が地域生活を希望されました。それからは、職員・企業が打合せを重ね、一人暮らしの条件を詰めていった結果、今回一人暮らしに移行することにになりました。今後は、生活場面での困りごとがあった際のサポート体制を整えたいと考えます。

平成三十年度巡回支援専門員整備事業が始まりました。これは、発達に「まぎ」のあるお子さんに対し生活の質を維持・向上させる援助Ⅱ早期発見・早期療育の視点から、特に未就学児への働きかけを行うものです。具体的には、今年度、市内の保育所・幼稚

園等を巡回訪問し、保護者に行った問診票結果より園での全体活動観察及び個別観察を行います。

園と確認し保護者の相談希望者と発達の「気になるお子さん」の保護者に呼びかけ、育児相談や療育につなげる面談を行っています。三月迄に二十四力所巡回します。来年度は、三十力所を超えて巡回し未就学児への働きかけを行う予定です。

また、「未来を考える会」が中心になり、今後の共生社会実現のための事業展開をしていきます。一つに、介護保険事業の開始に向けて動いています。また、ランの居宅介護事業と生活介護事業の介護保険対応の共生型サービスも開始する予定です。

児童から高齢者迄の支援をなじみのある事業所で受けるのが利用者様の安心につながります。本年も皆様のお力を頂きながら共生社会の実現に向け事業を推進していく所存です。



### 事業所移転から二年目を迎えて

福祉総合相談支援センターあい 管理者 宮園 正志

平成二十九年十二月福祉総合相談支援センターあいは事業所移転とともに居宅介護支援事業と一般相談支援事業を開始した。私自身もケアマネージャーとして従事する中、介護保険における制度・サービス内容及びサービス利用までの流れを少しずつ理解できるようになってきているところである。と同時にこれまで関わることのなかった介護保険事業に従事する方々との新たな出会いが私にとってよい刺激になっている。そのような中、介護保険分野と児童福祉分野・障害福祉分野との違いをどこどこで感じる一方、対象者が異なるのみでケアマネジメンツの考え方や手法は同じであることも分かってきた。

支援システムに向けての必要性を理解し動き出そうとしている様子を伺える。

最近利用者本人または利用者をとりまく家族への支援に対し、障害福祉分野と介護保険分野の連携を必要とするなど複雑なケースが増えてきている。当事業所でもそれと類似したケースがあり、担当の介護支援専門員と相談支援専門員が連携し支援するケースがあつた。同法人による複数支援に対しては、以前から困い込みなどを懸念する声もあるが、連携のしやすさと利用者本人に同法人という安心感をもつていただけたことを実感できたケースでもあつた。

国は「地域共生社会の実現」を掲げ、その具体化に向けた取り組みを進めていこうとしている。今後は地域貢献事業と連携のもと、共生型・多機能型サービスの展開と「いろいろな発想を駆使した事業」を体系的に模索していく必要がある。もちろんマンパワーの充足とスタッフのスキルアップのための促進が必要な

現時点で介護保険分野と障害福祉分野における相互の支援従事者の関わりは希薄である。しかし支援従事者の雰囲気や考え方の傾向としては、それぞれの制度に関心をもっており連携の必要性を感じていること、分野横断的な包括

ことはいうまでもない。「いろいろな発想を駆使した事業」を考えていく場合、過去に事例もなければ答えのないことも多いため参考となる材料が少ない。そのため新たな創造力や発想力、ときには常識外の発想が求められるし、それに耳を傾ける環境が必要である。人は基本現状維持が安心で楽なので恒常性を維持しようとする機能が意識的または無意識的に働くと言われる。適宜、現状維持の妥当性を俯瞰的に見ようとする習慣を身につける必要があるだろうし、時には現状を改善したり壊したりしていくためのエネルギーや覚悟を必要とすることもあるだろう。

事業所移転と新事業を開始して二年目。これからも制度の枠にとらわれ過ぎることなく、新たな視点と価値観を考へていくことができるように常日頃から備え心がけていきたい。

### 「言葉にすると」

おひさまキッズ 施設長 鶴田 正美

私がキッズで子どもと接する中で大事にしている事がありません。それはその子の大好きな夢中になれる遊びを見つけて、そして信じて待つことです。「楽しい」は自発的な活動を増やし、自発的な活動は多くのことを身につける土台になります。一生懸命遊びを楽しめる子どもは、学ぶことも楽しめる子どもに育っているように思うのです。

そして言葉掛けをする時はできるだけ肯定的な言葉を選ぶようにしています。人は言葉によって傷つくこともあれば、励まされることもありま

す。以前、私の「励ます」のイメージは単純に「頑張れ」でしたが、それらは（今のあなたはまだまだけど）という、現状を否定する響きがありま

す。本当の励ましとは、「あなたはそのままで素晴らしい」のメッセージを送ることで、ありのままを受け止めてもらえた安心感から、一歩前に踏み出す力を得ることなのかもしれません。また同じ言葉でも言う人によって受け取り方が

全く違うことがあります。それは発信する側の「真剣な思い」が通じるといふことなのでしょう。

- 「前進への三原則」  
1 自らが変わること  
2 最後まで諦めないこと  
3 喜んで進むこと

ちなみに後退への三原則は逆だそう、相手に変わることを求め、途中で諦め、何事もイヤイヤする事だそう。君が自分で自分をだめだと思つても、私はそう思わない。あなたが自分で自分を見捨ててしまつても、私はあなたを見捨てない」

自分の事を信じてくれる人がいる。それはとても大きな力になります。私もそんな風に目の前にいる人を全力で励ませる人になりたい。そう思います。





## 愛光会未来を考える会より

委員長 宮園 正志

日本は諸外国に類を見ないペースで少子高齢化へとすすんでいる。1970年代高齢化社会に入り、2025年は団塊世代がすべて75歳を迎える。今後も少子化への加速と人口減少、更には財政不足が深刻な問題となっている。

更に貧困や家族の孤立やDVの増加・地域のつながりの変化による地域力の弱体化、非正規労働者や精神障害者の増加がみられるようになった。これらの課題は世代間にわたり複雑化している。これらの課題を解決していくために国は平成28年7月「我が事・丸ごと『地域共生社会実現本部』」を設置した。

そんな中、愛光会は共生社会の実現や必要な組織改革への取り組みに向け、事業体系の見なおしや新規事業への参入・職員のスキルアップ、及び地域との関わりを促進などを継続的・機能的に進めていく必要があると判断し、平成29年8月「愛光会の未来を考える会」を設立した。本会は下位組織を複数設け、担当理事などのアドバイスを受けながら取り組んでいる。下位組織の名称や取組内容については、この後各担当が述べる。

今後は「箱を造れば人がくる」時代ではない。愛光会が一体となり共生社会の実現に向けて試行錯誤・創意工夫しながら、その地域やその時代に求められる事業を展開させていくとともに、社会の変化に対応できる柔軟性と耐性をつけ、法人の基盤を確かなものにしていく必要があると考えている。

### 地域貢献部会報告

垣内 貞俊

愛光会の未来を考える会・地域貢献部会では北花岡地区を対象に地域共生社会の実現に向けて「小薄そばを用いた地域交流事業」を実施し地域の高齢者、障がい者（児）、児童等地域住民との交流を深めまずは顔の見える関係性を目指して取り組んでいます。また、小規模多機能型居宅介護事業所を展開する吾平地区では鹿屋市社会福祉協議会と美里吾平コミュニティ協議会と連携し地域のニーズ調査等の活動を行ってきました。

吾平地区の地域貢献活動については今後、小規模多機能型居宅介護事業準備室にて検討する事になりますが、地域貢献部会としましては地域との協議、社会福祉協議会等との連携等のノウハウを準備室へ引き継ぐ等、バックアップを行っていきたくと考えております。

現在、少子高齢化が進み地域の力は減少傾向にあります。私達社会福祉法人が地域への積極的な参加を通じて再度私達が地域を知り、地域が私達を知って頂く事で地域のニーズにあった地域貢献活動が可能で有り、愛光会を利用して頂いている利用者の地域参加にも繋がると考えております。

### 【小規模多機能型居宅介護事業について】

当法人は、鹿屋市の「高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画」に基づいて募集されていた吾平地区での小規模多機能型居宅介護事業に応募しておりましたが、事業計画書・資金計画書等の書類審査、プレゼンテーションの審査を経まして、平成30年11月13日に無事内定を頂くことが出来ました。

当法人では居宅介護支援事業を昨年より展開しておりますが、高齢者の直接介護の事業は初めてのことで。平成32年

### 職員スキルアップ検討部会

日高 龍一郎

職員スキルアップ検討部会は「共生型サービス創設に向けて、必要な人材確保及び人材育成・定着のシステムを構築する」事を目標として、職員の教育・研修体制についての取り組み、そして人事異動の構築と働きやすい環境づくりについて取り組んでまいりました。

職員の教育・研修体制についての取り組みとして、まず始めに研修目標、研修体系の検討を行い、当法人職員の目指す職員像を決めました。次に職員の勤務年数を3階層に分けてそれぞれ社会的スキル・技術的スキル・情意（やる気・意欲）の3つの具体的目標を定め、それぞれの研修カリキュラムを計画いたしました。

本年度はその試験的研修として新任職員向けの研修を行いました。来年度以降本格的に実施出来るよう現在準備を行っています。

人事異動の構築と働きやすい環境づくりについては、当法人の職員の勤務状況（勤務年数や有資格状況等）に関する情報の整理を行いました。本年度人事に関する別枠の委員会が発足し、人材確保や人事異動等が、より効果的に進められるものと思われれます。

また、働きやすい職場環境づくりについては、当法人サービス向上委員会の保健衛生部会と職員のメンタルヘルス対策を検討しています。

今後も職員一人一人の資質向上、そして働きやすい職場環境の構築を目指し、当部会だけではなく各事業所、法人各委員会と連携して取り組んでまいりたいと思います。

### 共生型サービス検討部会

松元 洋和

平成30年度に新設された共生型サービス（高齢者と障害児者等が同一の事業所でサービスを受けやすくなる。介護保険と障害福祉両方の指定申請の特例）実施に向けて、昨年度より準備を進めて参りました。

まず部会では、利用者様の高齢化に伴い介護保険優先の下で65歳を迎える方が要介護者になった時に、継続して現在の事業所も利用できるように、共生型訪問介護及び共生型通所介護事業の実施に向けて準備を始め、今年度中には実施していく予定であります。

今後は、法人の掲げる共生社会の実現に向けて、児童も含めた様々な共生型サービスについても検討を重ねていきたくと考えています。

最後に部会として、今後の「地域共生社会」の一翼を担うために、児童・障害児者・高齢者等への包括的な支援の提供を実現出来るように各事業所と連携して取り組んで参りたいと思います。

新地 拓哉

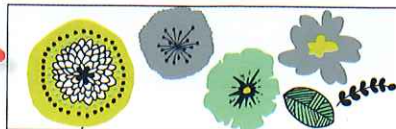
度に開設予定ですが、職員の確保、建物の整備、指定申請書や備品の準備、研修の受講、営業活動等やるべき事は多岐に渡ります。準備室を立ち上げ、事業開始に向けて取り組んでいきたいと考えております。

皆様方にはこれまで以上にご協力・ご指導を頂くことになるとは思いますが、今後ともよろしくお願い致します。





# 入職から今



## 桜島学園 四角 真奈香

入職してから早9カ月、児童養護施設の職員として、右も左もわからなかった4月と比べると、先輩方のあたたかいご指導のおかげで少しずつ仕事を覚えてきました。また、児童支援においては、42人の入所している子どもたちは、とても個性が豊かで、どう接すればいいのか、どんな支援が望ましいのか、私なりに試行錯誤の毎日です。時には失敗もありますが、失敗を恐れずに子どもたちと向き合うことが出来ているのは、9か月間で築いた子どもたちとの信頼関係や、先輩方・同期の職員からの支えがあるからこそだと感じています。これからも常に支援を見直しながら、月日とともに成長していきたいと思う所存です。辛いことがある反面楽しいことは倍あります。子どもたちとの他愛もないことで笑いあえる桜島学園が私は大好きです。

## 桜町学園 圓田 智洋

私は桜町学園で生活支援員として今年度4月から勤務しています。働いている中で、利用者様の体調面・精神面は日々変化があり個性も様々なことから、利用者様の特性を知り活かしながらどう接していくか、どのような支援が最適なのか等悩むこともあります。同時にやりがいを感じる事も多くあります。利用者様にとって良い支援が選択できたと思える時、何気ないやり取りで笑顔を見せてくれた時など「この仕事に携われて良かった」と感じます。私自身、以前から興味を持っていた障がい者支援に今携われていること、そこで成長していけることに感謝しながら、その気持ちを利用者様の支援に反映していきたいと思っています。経験や知識が足りないところもありますが、仕事に尽力し、より良い支援を行っていききたいと思えます。

## フレンドリーホームいいぐま 宮園 年枝

入職して9ヶ月が過ぎようとしています。入職した当初に比べると、利用者様とも少しずつではありますが、コミュニケーションも取れるようになってきました。利用者様それぞれの個性や、拘りにまだまだ戸惑いもあり、日々悩んだり迷ったりもしますが、先輩職員のアドバイスを貰い、毎日頑張っています。支援以外でも、色々な業務や行事もあり、覚える事もまだまだ沢山ありますが、まずは一つ一つをしっかりと覚え、実践していこうと思っています。これからも、利用者様の笑顔を沢山ひき出せる様に、また、いいぐままでの入所生活を楽しく過ごしていただける様に、生活支援員としての職務を果たしていきたいです。



## 総合サポートセンターラン 土屋 良樹

私は平成23年10月から働かせていただいております。振り返ると早いもので7年が経ちました。最初は、どのような方々がいらっしゃるのか、どう支援すればよいか全く解らない状態でしたが、利用者様が気軽に話しかけてくれたので少し安心しました。しかし、話しかけても黙っている方、話しかけると他害行為をされる方もおり、何故怒るのか分からず、上司に相談しました。すると「信頼関係が築けていないのでは」との助言があり、その日から挨拶や声かけ等で徹底してコミュニケーションを図りました。他害行為を受けたりもしましたが、1年ほど継続すると、利用者様から挨拶や話をされるようになりました。この経験から、コミュニケーションや信頼関係は大切だと感じました。これからもしっかりコミュニケーションを図り、質の高い支援が行えるよう頑張りたいと思います。

## 福祉総合相談支援センターあい 松脇 重人

私が入職したのは平成20年7月でした。早いもので、約10年愛光会で働いています。

愛光会で働く前は、土木の学科を専攻し、土木に関する会社に就職し設計の仕事をしていました。今まで、福祉の勉強をしてこなかったことやパソコンを使う仕事であった為、人と多く接する仕事ではなかったこと、また人見知りの性格もあり、とても不安で入職しました。しかし、利用者の皆さんは、そんな私に温かい目

で接してくださり、上司も丁寧に教えていただき、10年間働いてくることが出来たのだと思います。今、私は4月より相談支援専門員として働いています。今まで働いてきた経験等を活かし、不安に感じている利用者の方や御家族の力になれるように、頑張っていきたいと思っています。まだまだ勉強不足も感じる事が多いですが、次の10年は、もっと力をつけることが出来るように頑張っていきたいと思っています。



# 各施設新職員のご紹介 ニューフェイス



桜島学園  
調理員  
酒元 実咲

九月より調理員として働く事になりました。子どもたちに美味しい食事を提供できるように頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



フレンドリーホームいぐま  
生活支援員  
前原 謙策

今年の九月からフレンドリーホームいぐまに生活支援員として入職しました。以前は介護・保育で働いていたので、その経験を活かし、優しい先輩方から、より、専門的な知識や技術を学んで頑張りたいと思います。



和光学園  
生活支援員  
大西 裕輔

今年の七月一日、入職させていただきました。先輩たちの指導を受け成長していきたいと思っております。これからよろしくお願いします。



和光学園  
生活支援員  
岩切 望

入職して三ヶ月が経ちました。学び多き日々の中、支援員として、お役に立てる様努力して参ります。よろしくお願いします。



## 寄贈一覧 桜島学園分

(H 30.7.1 ~ H 30.10.31) ※順不同

- 篠原研二様
- 徳永辰則・さわ子様
- 佐藤食品工業様
- 鹿児島県共同募金会様
- 鹿児島ライオンズクラブ様
- 日本鏡餅組合様
- JA中央会様
- 全国シャンメリー協同組合様
- 足ながおじさん様
- 鹿児島まぐろ同友会様
- 鹿児島ユナイテッドFC様
- 鬼丸克彦様
- 門司一徹様
- 東野添建設様
- NHK歳末たすけあい
- ほっともっと様
- IP有志会様
- 西鹿児島駅構内食堂様

たくさんの寄贈をいただきました。心から感謝いたします。

## 寄贈一覧 和光学園分

(H 29.12.12 ~ H 30.10.31)

- (株)新生社印刷様
- 鹿屋市社会福祉協議会様
- 鹿児島県共同募金会様
- 故 上馬庭 勇様



## 編集後記

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

さて、平成最後を締めくくる愛光会だより一〇四号をお届け致します。昨年は、明治元年（一八六八年）から数えて百五〇年になる「明治維新百五〇年」の年でした。その年に放映されたNHK大河ドラマ「西郷どん」の影響もあり、県内は大いに盛り上がりました。

今年平成は終わりを告げ、次号からは新しい元号でスタートします。愛光会役員一同、利用者様が一日一日笑顔で安心して過ごしていただけるよう、努力していきたいと思っております。本年も宜しくお願い致します。

(編集委員一同)





# 行事 生活 コマ



ランニング桜島 チームスマイルがソーラン節



秋桜杯児童福祉施設スポーツ大会



スケッチ大会Kちゃんの絵画

桜島学園



ハロウィン



秋の親子1日遠足



成人部志布志1泊旅行研修

和光学園



クリスマス会



海辺ヘドライブ



納涼大会

桜町学園



めんたいキッド慰問



敬老会



生活介護フラワーアレンジメント

フロンティアホーム  
55歳未満



なかよしスポーツ大会



1日遠足 (イオン始良店)



鹿女短交流会

総合サポートセンター  
ラン



【汽車に乗ろう】



ハロウィン製作



習字体験 (兄妹支援)

おひさまキッズ